

お釈迦さまの十大弟子・優波離尊者 う ぱ り 平成24年10月第3週放送

「人は、その生まれによって とうと 尊い人になるのではない。その行いによってのみ、尊い人となるのである。」

この言葉は、ごく初期の仏教経典にある、お釈迦さまの言葉です。

インドには、カーストという身分制度があります。お釈迦さまの時代にはすでに存在していました。この制度では、身分は生まれによって定まり、生涯変えることができないとされています。さらに、職業、結婚、食事の仕方など、さまざまなことがらが身分によって細かく決められているといった、非常に厳しい制度なのです。

お釈迦さまのもとに集まった仏教出家者集団である「サンガ」は、出家の年ねんげつ月による先輩後輩のような関係はありましたが、その他は平等な関係でした。「サンガ」の中では、お釈迦さまでさえ いち 出家者として位置づけられていたのです。

今日のお話の う ぱ り 優波離尊者（ウパーリ）は、カースト制度の中でも最下層の出身であったと伝えられています。ウパーリは、身分制度によって与えられた仕事を忠実にこなし、身分の高い者に対してもよく仕えました。

その縁もあり、当時身分の高かったアヌルダあなりつ（阿那律）やアーナンダあなん（阿難）らと共に、お釈迦さまのもとで出家をする機会を得ることができたのです。

ウパーリは、身分制度によって知性や教養とはかけ離れた生活を よぎ 余儀なくされてきましたので、修行の初めは、お釈迦さまの説いた教えをよく理解できなかったといわれています。

しかし、ウパーリは、かいりつ 戒律や集団生活における規律をひとつとしておろそかにすることなく、忠実に実行し続けることで、お釈迦さまの教えを理解したのです。

戒律を忠実に守り続ける日々の修行の積み重ねが、お釈迦さまをはじめ他の出家者たちに認められることとなり、ウパーリは、お釈迦さま亡きあとに行われた へんさん 経典編纂会議の席で、戒律について多くの弟子の前で語ったのでした。

そして、ウパーリは、お釈迦さまの十大弟子の一人「持律第一（じりつだいいち）」として尊ばれる人となったのです。

「人は、その生まれによって尊い人になるのではない。その行いによってのみ、尊い人となるのである。」

まさに、お釈迦さまのこの言葉通りに生きた方が、う ぱ り 優波離尊者なのです。

— 終 —